さがみはら産業創造センター 編集・発行

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 ― 地域版 ―

発行 No. 79

発行日：令和4年(2022年)7月15日(金)

地域企業紹介 その 79

株式会社エフエムさがみ（FM HOT 839）

「地域防災メディアとして その使命を託してもらえるFM局に」

相模原市で“コミュニティ放送事業”を営む株式会社エフエムさがみの代表取締役である平岩夏木社長を相模原市中央区にある本社スタジオに訪ねました。

今年、開局26年目を迎えるエフエムさがみは、平成8年に原保美さん（現取締役）によって設立されたコミュニティ FM局。「FM HOT 839」の愛称で親しまれ、可聴エリアは相模原市・町田市・愛川町とその周辺地域で、可聴人口は100万人を超す。無料公式アプリをダウンロードすればスマホでもラジオを聴くことができる。地域のイベント、商業、文化など、地元に密着した情報を生放送と収録を織り交ぜ24時間体制で放送している。健康づくりや小学校給食の献立などの生活情報から地元愛を目覚めさせてくれるご当地クイズ、ラジオ市長室や行政情報に至るまでコンテンツは盛りだくさん。地元大学生たちが番組制作に参画するなど若年層のリスナーも増えている。

一方、コミュニティ FM局は、災害時の防災メディアとして災害状況や防災情報を伝える大きな役割がある。その開局ピークは、3大地震「阪神淡路大震災」「中越地震」「東日本大震災」の直後。同局も阪神淡路大震災の直後に開局した。全国ネット局では伝えきれない身近な情報を迅速かつ正確に伝えることがコミュニティ FM局の大きな特徴だ。運営形態は、三セク型、民間型、NPO型と大きく3つ。特に民間型は、経営面で厳しく10年未満で閉局に至るケースも少なくない。そのような中、民間型の放送局として四半世紀を超える放送実績を有するエフエムさがみ。その一番の原動力は、平岩社長の“地域の防災メディアとしての強い使命感”だ。

ボランティアから副社長を経て、平成29年に代表取締役に就任した平岩さんは京都市東山区五条の生まれ。小学校低学年の頃は、親戚の家にも一人で入ることが出来ない“かなりの人見知り”だったらしい。5年生の時、父親の転勤で川崎市を経由して相模原市へ転居。当時、京都弁のアクセントにコンプレックスを感じていたそうだ。麻溝台中学校では1期生だったので、体育館もなければ図書室に本もない状況の中、校則をはじめ服装や頭髪のルールも自分たちで作った思い出がある。その後、県立相模原高校へ進学するが、「自分はおちこぼれでした（笑）」と平岩さん。在学中は放送委員会の活動に熱中した。昼休みの番組制作や高校野球神奈川大会のレポートなどに熱心に取り組むと共に、当時の人気番組“銀座NOW”の学生リポーターに。

代表取締役社長：平岩 夏木（ひらいわ なつき）
所　在　地　：神奈川県相模原市中央区相模原6-20-1
従業員数　：7名（パート・アルバイトを含む）
資　本　金　：8,300万円
事業内容　：コミュニティ FM放送、イベント運営
URL　：https://fm839.com/
周波数　：83.9MHz

スマホでラジオ
（無料公式アプリ）

（表面からつづく）

周りが大学受験に向けて勉強する中、授業が終わるとテレビ出演のため制服姿で銀座に向かい、学校からお叱りを受けたこともあったそうだ。短大時代には、夏は海、冬はスキーと花の女子大生を謳歌した。

卒業後は大手旅行会社である日本旅行に入社。経理や窓口業務、添乗員を経験した後、結婚を機に退社した。その後、ゼロックス、オーストラリアの専門学校で仕事をするなど多彩な経歴を持つ平岩さんだが、平成7年、地下鉄サリン事件で一台前の電車に乗り合わせ、大手町駅での悲惨な状況を目の当たりしたことが仕事の在り方を見直す転機に。まだ幼い息子さんのことを一番に考え、近くの職場への転職を決めた。折しもエフエムさがみ開局の年、タウンニュースでボランティア募集を見て応募したのが同局との出会い。最初に担当したのは専門家に話を聞く15分間の収録番組だった。これまでを振り返り、子育てのために柔軟な働き方を許してくれた会社（前社長）に感謝していると平岩さん。現在、会社経営に力を注ぐと共に、長寿番組である「とれたてランチBOX」木曜日のパーソナリティーも自ら務める。今年2月には、コミュニティ FMとして全国2番目となる「国連SDGメディアコンパクト」に加盟した。

これまでの経験から、“やりたいと思ったことは行動に移す”、“もらったチャンスは絶対に逃さない” をモットーにしている。「社長に就任するまでは、局をつぶしたくない、楽しい番組を届けたいという思いが強かった。社長就任後は、その思いに加えて、地域の一企業として地域に貢献すること。会社の雰囲気や体制も変えて、もっともっとリスナーの皆さんに信頼して頂ける局にしていきたい。そのために通常番組をしっかり放送することはもちろん、災害・防災情報は私達の使命、その使命を託しても大丈夫な局なんだと思って頂ける局にしたい」と語る。そして、「その担い手は、多くのボランティアであるパーソナリティーとHOT情報サポーターの方々。ボランティアの皆さんは、ラジオや話すのが好きだけではなく、“地域のために役に立ちたい” という強い気持ちで関わってくださっています。だからこそ、私達だけでやっているのではなく、多くの方々の協力で続けられていることも知って頂けるようにしたいです」と平岩さん。

相模原を中心とした地域の安全安心と地元愛のために日々頑張っている平岩社長とスタッフ、そして多くのボランティアの皆さんに心から感謝の気持ちとエールを贈ります！

入居企業紹介
80

塗装自動化を後押しする 相模原ロボティック塗装ラボ

サメス・クレムリン株式会社

フランスに本社を置くグローバルな総合塗装機器メーカーのサメス・クレムリン株式会社でオートモーティブ・キーアカウント・ディレクターを務める丹野栄一氏にお話を伺いました。

サメス・クレムリン社は、100年近い歴史を持つ塗装機器メーカーとして、世界第３位の規模を誇っています。SICには、「相模原ロボティック塗装ラボ」として、令和3年（2021年）1月より、SIC-1 Startup Lab. に入居しています。

工業塗装業界では、環境負荷軽減や作業者の高齢化に伴う人手不足への対応が大きな課題となっています。そこで同社では、これらの課題解決に資する塗装機や塗装システムの提案に力を入れています。

まず、環境負荷軽減のポイントとなるのが「塗着効率」です。塗着効率の高い塗装機の導入は、VOC（揮発性有機化合物）削減にも寄与し、汚れに対するメンテナンス性向上にもつながります。同社の製品は、①エアスプレー、②エアレス、③エアミックス、④粉体、⑤静電、⑥高粘度の 6 つの製品群によって構成されています。どの塗装機も、他社製品に比べて塗料ロスが少ない塗着効率の高さが特長です。環境意識の高い欧州市場で培われてきた同社の技術は、日本国内でも高く評価されています。

また、人手不足解消に関しては、「塗装自動化」による生産性向上に期待が集まっています。相模原ロボティック塗装ラボでは、産業用ロボットを活用した無人化ロボティック塗装システムの導入を支援しています。従来の塗装機によるロボティック化では塗り切れなかったものも、塗着効率の高い塗装機でタッチアップもなく塗り切ることが可能になります。少量多品種の塗装を手掛ける企業には、ティーチングのノウハウも提供するなど、中小企業にとっても心強い万全のサポート体制を構築しています。

同ラボでは、小型非静電ベル塗装機「ナノベル 801」や二重霧化塗装機「エアミックス」などを用いたデモンストレーションと実機テストが可能な環境が整備されています。これらの塗装機は、平面における塗着効率の高さだけではなく、奥への入り込みの良さなどにより、凹部への効率的な塗装が可能です。短いタクトでも、少量多品種でも、ティーチング方法をアドバイスし、補正なしで塗り切ることができます。

非静電の「ナノベル 801」は、高電圧を使わずに遠心力を利用した微粒化技術のみで塗装する技術で、安全かつ簡単な取付・操作で生産性の向上が期待できます。それだけで、従来のエアスプレーガンと比較して、塗料消費量を最大で30%も大幅に節約できます。また、「エアミックス」は、こちらも非静電でありながら、最大86%の高塗着効率を実現させています。さらに、ミスト飛散が少なく、塗装ブースやフィルター清掃の手間も減らせます。このように、同社では、品質や効率性だけでなく、メンテナンス性も重視しており、ランニングコスト削減につながる提案にも取り組んでいます。

サメス・クレムリン社では、欧州発の独自技術で、塗装に関する企業の課題解決と環境保護の双方に貢献していきます。

ナノベル 801

エアミックス

サメス・クレムリン株式会社
SIC-1 Startup Lab. 1305 号室
https://www.sames-kremlin.com/japan/jp/

第1回（全3回）｜研究開発に使える補助金「成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）」の活用を考えてみませんか？

ここ数年、政府の中小企業政策として様々な補助金が公募されています。設備投資のための「ものづくり補助金」や IT 投資促進のための「IT 導入補助金」（いずれも経済産業省）は事業規模も大きく、活用されている事業者の方も多いのではないかと思います。ここでは少し視点を変えて「研究開発」を検討されている事業者様に、研究開発投資に活用できる補助事業をご紹介したいと思います。

技術開発やサービス開発は会社の成長や競争力強化のために実施するものですが、開発投資（先行投資）は投資費用回収の可能性や時期が読めないため、中小企業、小規模事業者の中には「いいアイデア」や「優れた技術」があっても、開発着手をためらうケースがあります。このような事業者の開発投資を後押しするのが、国や自治体の補助事業ですが、設備投資や IT 投資の補助金のように予算規模が大きくないため、意外に知られていません。

身近なところでは相模原市が市内の事業者に対して助成を行う「相模原市中小企業研究開発補助金」（一般型、新型コロナウイルス関連型）があります。上限は一般型で 100 万円（補助率 1/2）、コロナウイルス関連型で 300 万円（補助率 3/4）と研究開発の初期段階に必要な費用を賄うことができます。

さらに製品化まで視野に入れた研究開発では、数千万円以上の開発投資が必要になる場合があります。そこでご紹介したいのが、経済産業省の成長型中小企業等研究開発支援事業（通称：Go-Tech）です。Go-Tech は令和4年度から開始された事業ですが、その前身は戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン）と呼ばれ、ものづくりの「競争力強化」と「新事業創出」を目的としてこれまで2000 件を超える研究開発事業を支援してきた実績があります。ものづくり補助金等の補助事業が補正予算で措置されるのに対して、Go-Tech は経済産業省の当初予算で編成され、中小企業庁が公募を行うことから、政策的に非常に重要な事業に位置付けられていることがわかります。予算規模は毎年 100 億円から 150 億円、採択件数は 100 ～ 120 社程度と補助事業としては小ぶりですが、採択されたテーマは「選び抜かれた事業」として、産業界で高く評価されています。

補助事業の概要は次の通りです。

- **補助対象者**：川下企業や市場のニーズを受けて、技術やサービスの高度化を行う中小企業者を含む共同体
- **補助金額**：3 年間で最大 9,750 万円（出資獲得枠の場合は 3 億円）
- **補助率**：中小企業者は 2/3 以内、共同参画する大学や公設試は定額（ただし上限設定あり）
- **補助事業期間**：2 年度ないし 3 年度
- **公募期間**：例年は 2 ～3 月公募開始（4月末締切※）

Go-Tech 事業は一つ一つのテーマの開発規模が大きいため、求められる成果や申請要件が厳しく定められています。そのため準備に半年以上を要することも多いので、チャレンジしたい事業者の皆様は今から来年度に向けて準備していただくことをご提案します。次回以降では制度の詳細を 2 回にわたってご説明します。

※令和 4 年度は 6 月末に第二回公募が開始されました。締め切りは 8 月 22 日です。

株式会社ポラリス
代表取締役 佐々木 浩子

25 年にわたり精密機械メーカに勤務し、主に技術開発・事業開発を担当。中小企業診断士登録後、2015 年株式会社ポラリスを設立。企業の課題や悩みを整理し、技術、サービス、ノウハウなどをサポート。企業や経営者の想いを“可視化”することを理念に掲げている。

SIC 食のさんぽ道

本格インドカレー eim’s（エイムズ）

当センターから徒歩7分、緑区橋本にある「本格インドカレー eim’s（エイムズ）」は、店長のビンさんが日本人向けに味をアレンジしたインドカレーが楽しめるお店。ビンさんはネパール出身で、本場インドや横浜みなとみらいで修行し、自分の店を持ちたいという想いから令和 2 年（2020 年）に eim’ s をオープンしました。

カレーはスパイスの特徴を生かした独自の調合で、辛さも甘口から激辛まで選べます。今回の取材でいただいたカレーもそれぞれの食材に合わせた味付けになっており、ナンもライスも相性ばっちりです。ランチはナンとライスが食べ放題で、ディナーはお得なセットやおつまみなどの一品料理を用意しています。

カレーを楽しんでもらえるよう日々メニューを探究するビンさん。次にお店へ行くときは、パワー満点のオリジナル薬膳カレーをいただこうと思います。ごちそうさまでした。（大谷）

ビンさんおススメのガーリックチキンカレー

ネパールの国民食ダルバートセット
（ひよこ豆のカレー風スープ、カレー、ライス）

【所 在 地】 神奈川県相模原市緑区橋本8-2-1
ラ・フロール橋本飲食モール1階
【営業時間】 ランチ 11:00 ～ 16:00（L.O15:30）
ディナー 16:00 ～ 22:30（L.O22:00）
【定 休 日】 年中無休
【TEL/FAX】 042-703-7718
【 URL 】 https://foodplace.jp/eims/

スパイシーなタンドリーチキンティッカ
（骨なしチキン）

ロボットSIer養成講座

実践×ケーススタディで構想力・提案力をUP!!

第6期　受講生募集中!!

【事前講義(1)】8月下旬配信開始		①ロボットSIerのための安全講座 ②付加価値に着目したシンプルな設備設計
【前　期】	9月5日(月) 10:00-17:00	①課題やニーズを引き出す質問力 ②現地調査・ヒアリングの事前説明 ③事前講義(1)Q&A（安全講座）
	9月6日(火) 10:00-17:00	①事前講義(1)Q&A（シンプルな設備設計） ②SIer目線での現地調査ポイント ③現地調査・ヒアリング／グループワーク
【事前講義(2)】9月下旬配信開始		①ロボットSIerに必要なプロジェクトマネジメントの考え方
【中　期】	10月17日（月） 10:00-17:00	①SIerケーススタディ(1)「食品業界」
	10月18日（火） 10:00-17:00	①事前講義(2)Q&A（プロジェクトマネジメント） ②産業用ロボット導入のポイント ③中間発表会
【事前講義(3)】10月下旬配信開始		①協働ロボットと周辺機器・シミュレータの最新動向
【後　期】	11月14日（月） 10:00-17:00	①SIerケーススタディ(2)「マテリアルハンドリング」
	11月15日（火） 10:00-17:00	①事前講義(3)Q&A（協働ロボット） ②ロボットダイジェスト 注目の最新ロボット技術・業界動向 ③SIer協会とSI検定制度 ④最終発表会

募集要項

【期　　間】	令和4年9月～11月 （本講義：6日間、事前講義：4科目）
【会　　場】	前期：サン・エールさがみはら 中期・後期：オンライン（Zoomﾐｰﾃｨﾝｸﾞ）
【受 講 料】	本科生　相模原市内：132,000円（税込） 相模原市外：165,000円（税込） 単科生　相模原市内：1科目 16,500円（税込） 相模原市外：1科目 19,800円（税込）
【定　　員】	15名（先着順）※単科受講は定員なし（原則）
【問い合わせ先】	㈱さがみはら産業創造センター 事業創造部　樽川・花摘

中小企業大学校　サテライト・ゼミ　with　さがみはら産業創造センター

事業の中核を担うマネジメント人材の育成と組織力強化の進め方

第1回 ①マネジメント人材の必要性・重要性「参画型経営の実践」
②組織の理念・方向性の明確化「ストーリーテリングによる想いの発露」

第2回 ①マネジメント人材の発掘・育成の仕組みづくり「マネジメント人材の計画的育成」
②マネジメント人材の評価制度のあり方「ジョブ型・メンバーシップ型」

第3回 ①働きがいのある職場の作り方　「エンゲージメント向上」
②人材育成の理論と実践のポイント

【開催期間】	令和4年8月9日㈫・8月23日㈫・8月30日㈫（全3回） 第1回：10:00-17:10、第2回：10:00-17:00、 第3回：10:00-17:10
【会　　場】	サン・エールさがみはら（2階・第1研修室）
【対　　象】	経営者・経営幹部
【受 講 料】	29,000円（消費税込）
【問い合わせ先】	㈱さがみはら産業創造センター 事業創造部　樽川・上野

詳しくはSICウェブサイトをご覧ください。
https://www.sic-sagamihara.jp

令和4年7～9月　SIC EVENT CALENDAR　イベントカレンダー

令和4年8月11日㈭～13日㈯	子どもアントレプレナー体験キャンプ
令和4年8月9日㈫	事業の中核を担うマネジメント人材の育成と組織力強化の進め方 開講
令和4年9月5日㈪	ロボットSIer養成講座 開講（～令和4年11月）

SIC空室情報（令和4年7月15日 現在）※お気軽にお問い合わせください。

現在、空き室はございません。
最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

編集後記

「市外から相模原に戻る車中でエフエムさがみのラジオが聴こえてくると、“相模原に帰ってきた”と実感する」というリスナーからの話に感激したという平岩社長。地域に根差した放送だからこそ、暮らしに溶け込み、ふとした瞬間に私たちの琴線に触れるのかもしれません。皆さんはどのようなとき、“地元に帰ってきた”と実感されますか？

（株）さがみはら産業創造センター（SIC）
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119　FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想をお待ちしています。

ウェブサイト https://www.sic-sagamihara.jp/

デザイン　DESCL 株式会社デスケル